令和 3 年度　東京都内湾水生生物調査 11 月成魚調査速報

●実施状況

令和 3 年 11 月 15 日に成魚調査を実施した。調査当日は若潮で、干潮が 8 時 18 分、満潮が 14 時 48 分であった（気象庁のデータ）。調査当日の透明度は 2.1～2.7m であった。また、全地点で赤潮や貧酸素状態は確認されなかった（千葉県水産総合研究センターの貧酸素水塊速報においても調査地点周辺の貧酸素状態は解消されている）。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	10:17-11:05		11:22-12:00		12:10-12:40		12:45-14:00	
水深（m）	24.8		14.3		13.9		8.1	
天候	快晴		快晴		快晴		快晴	
気温（℃）	18.0		18.8		19.0		19.6	
風向/風速(m/sec)	ENE/3.0		NE/3.0		CALM		CALM	
波浪(m)	0.3		0.2		0.1		0.1	
透明度(m)	2.7		2.4		2.4		2.1	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	17.1	18.7	17.1	18.0	18.2	17.9	18.1	17.6
塩分（－）	30.3	33.0	25.8	31.7	30.6	32.0	30.5	31.3
DO(mg/L)	8.1	3.7	7.4	5.2	8.5	5.6	7.7	5.3
DO飽和度(%)	101.3	48.9	88.1	66.5	108.3	71.6	93.2	66.9
pH（－）	8.1	8.0	7.9	8.0	8.1	8.1	7.9	8.0
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層：上層（0m）・下層（海底面上 1m）

●主な出現種等　（速報なので、種名等は未確定です。）

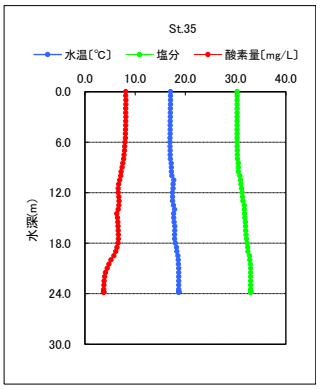
主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	テンジクダイ(+) マアナゴ(r)	シログチ(+) テンジクダイ(r) ツバクロエイ(r) アカエイ(r)	マコガレイ(r) テンジクダイ(r)	アカエイ(r) クロダイ(r)
魚類以外（目立った種）	シャコ (c) ハナギンチャク科(+)	エビジャコ属(+) シャコ(r) ホンビノスガイ(r)	シャコ(+) エビジャコ属(+)	ホンビノスガイ(+) サルボウ(r)
備考	上記の他、サルエビ、イッカククモガニ、ダンゴイカ科等が採取された。	上記の他、ジンドウイカ科、ハナギンチャク科、スナヒトデ等が採取された。		

注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置

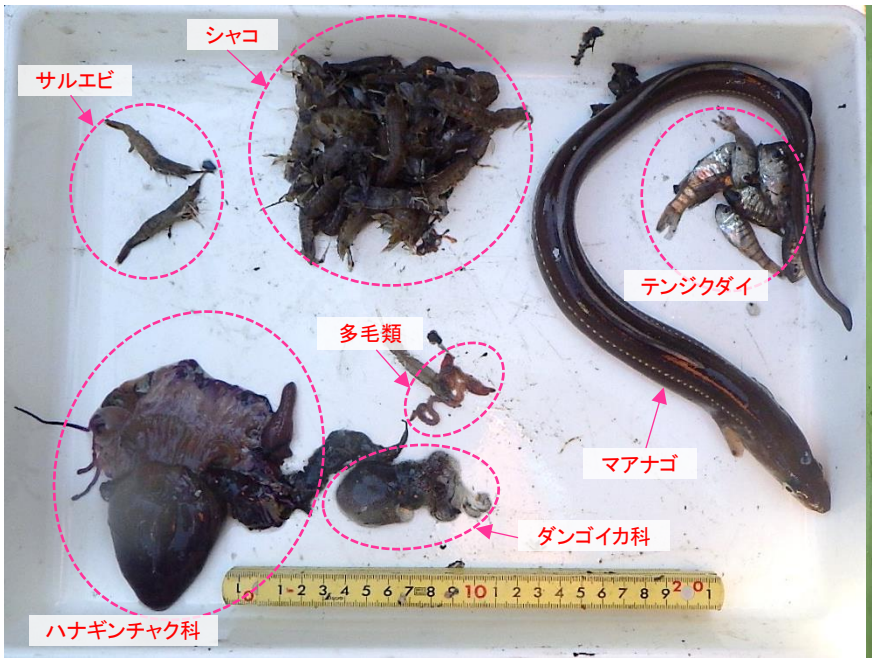
水質状況



地点状況

南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

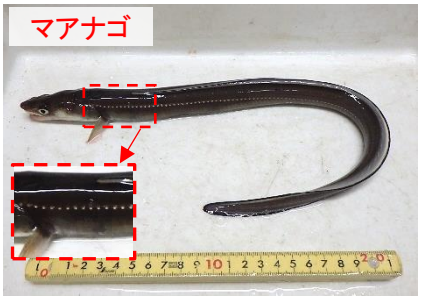
採取試料



主な出現種　※写真のスケール 1 目盛:1mm

東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は 7～10 月で、親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。

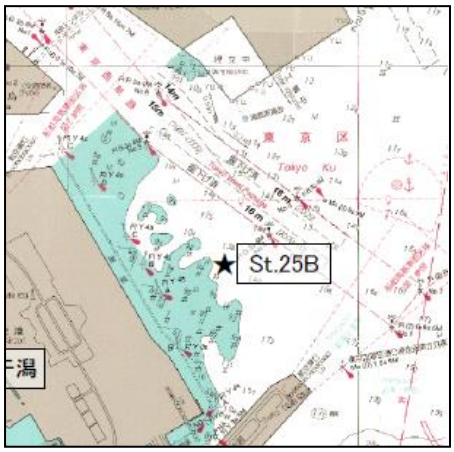
丸みを帯びた胴と丸い耳のようなひれを持つ小型のイカ類。活発に泳ぎ回らず、海底付近で生活する。夜行性であり、昼間は砂泥中に潜っている。



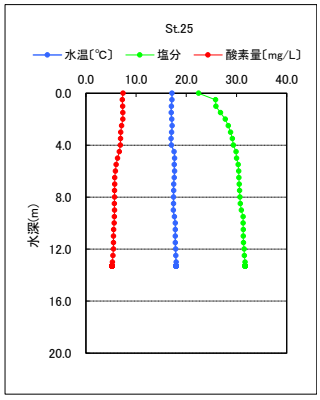
湾全域に分布するが、季節により移動する。砂泥底に生息し、夜行性で甲殻類や多毛類等を食べる。尾部まで続く体側の白い点線が特徴。これが秤の目盛に似ていることから、「はかりめ」と呼ぶ地域もある。

調査地点：St.25

調査地点位置



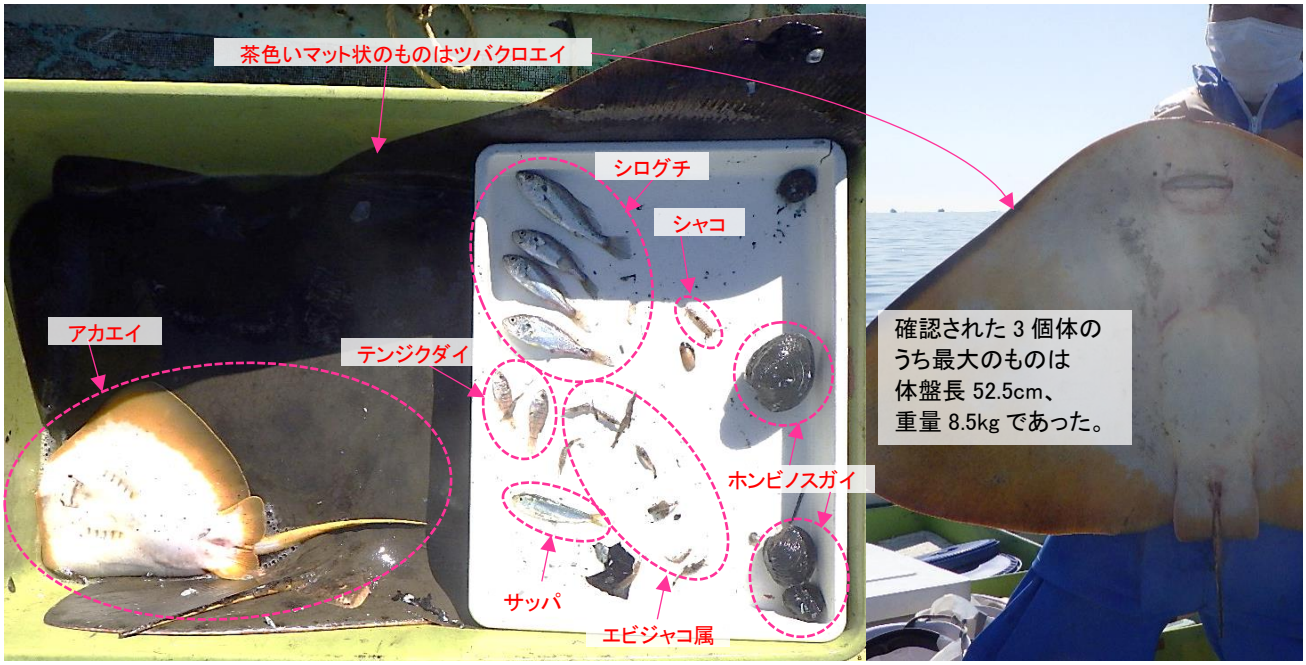
水質状況



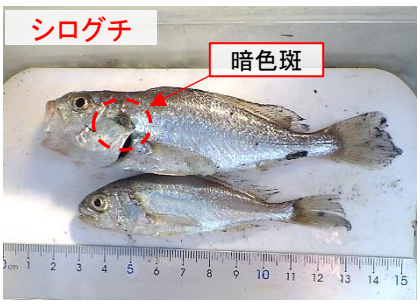
地点状況

西側には東京国際空港が見える。

採取試料



主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm



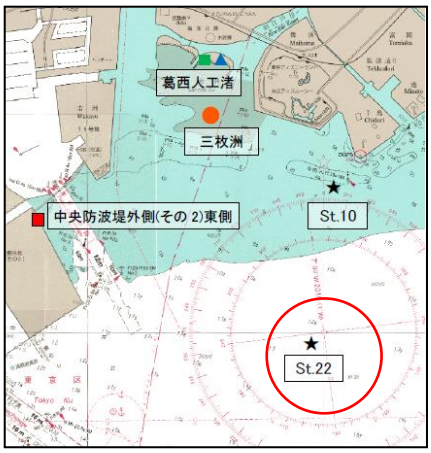
泥底から砂泥底に生息する。口の中が白く、鰓蓋に暗色斑があるのが特徴。浮袋を使ってグーと鳴くこともある。東京湾ではイシモチと呼ばれる。

東京湾で最も普通にみられるエイの仲間。胸びれで海底をあおいで掘り起こし、隠れている甲殻類や多毛類などを食べる。尾部に毒針を持ち、刺されると非常に痛い。

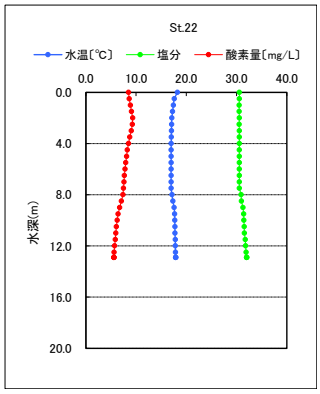
東京湾全域から出現記録がある。砂泥底に生息する。体は横に伸びた菱形で、体盤幅は 1.2m 程になる。ツバクロとはツバメ（燕）のこと。捕獲した個体は捕食したカタクチイワシを吐き出していた。

調査地点：St.22

調査地点位置



水質状況



地点状況

北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛:1mm

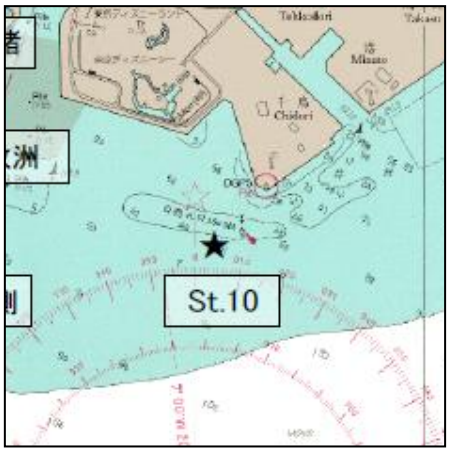
体長 15cm 程になる。内湾や内海の砂泥底、また河口の汽水域にも生息している。肉食性で、魚類、甲殻類、多毛類等を捕らえて食べる。

内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獰猛で、稚魚等を捕食する。

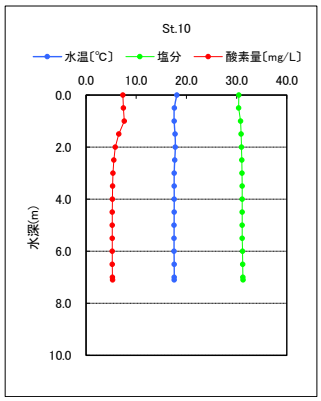
東京湾では普通に見られるカレイの一種。浅い砂泥底に生息し、全長 45cm 程に成長する。成魚は夏季には湾央のやや深場の砂泥域に分布するが、秋季から春季にかけては湾奥にも出現する。この分布変化は夏季の貧酸素水塊の発生に関連すると考えられる。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況



地点状況

北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

東京湾全域から出現記録がある。体色は銀白色であるが、タイ科の中では黒っぽい。雑食性で小型甲殻類やゴカイ類、貝類、藻類などを食べる。雄性先熟（オスとして性成熟した後にメスに性転換する）である。

内湾の潮下帯から水深 20m までの砂泥底に生息している。殻の表面には 32 本ほどの太い縦筋が並んでいる。アカガイによく似るが、殻表面の筋の本数で区別できる。（アカガイは 42 本）

殻長 10 cmを越える大型種。北米原産の外来種であり、夏の貧酸素環境に耐性があることから、近年東京湾を代表する二枚貝のひとつとなっている。本来殻は白っぽいが、底泥中の硫化物の影響で黒っぽくなっている。